

(イ) ピアノによる例

○メロディーを含む分散和音伴奏——楽譜 5—a, b, c

楽譜 5—a

楽譜 5—b

楽譜 5—c

○メロディーを含まないリズムカルな伴奏——楽譜 6

楽譜 6

○和音を含む旋律的な伴奏——楽譜 7

楽譜 7

(ウ) 電子オルガンによる例

楽譜 8—a

楽譜 8—b

(3) リズムパターンを考える。

楽譜 9 には、4/4 拍子の例をあげたが、3 拍子、6 拍子……等数多くのパターンが考えられる。

楽譜 9

(4) 変化のあるハーモニーを考える。

(7) 借用和音について

1つの曲に使用される主要三和音(I・IV・V(V7))のみでは和声感が単調になりやすいので、伴奏の途中に近親調の和音(借用和音)を挿入することにより、さらに変化のあるハーモニーが生まれる。——楽譜10, 11, 楽譜 5—b, Cの()がきを参照。

楽譜10

楽譜10は、原曲の a', すなわち終止形の部分でC; IV→V7→I という和音連結を C; II6→V7→I としたもので、終止にはいる場合、IVの代理として多く用いられる。

楽譜11

※ 楽譜11は単に和音づけとして大譜表をのせたが、→印の部分(右手高音)を笛のオブリガートに活用し、メロディーとの重奏に、またバスの部分(左手)を低音楽器や電子オルガンのペダル鍵盤に分担奏させる方法等が考えられる。

楽譜12